

EPO 東北通信



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku

ESD
東北地方
ESD活動支援センター

令和2年度



巻頭特集

環境で地方が元気になる時代がやってきた! 地域循環共生圏 2

Topics

EPO東北

- 環境省地域循環共生圏事業 3~5
みちのく薪びと祭り 6
パートナーシップ団体情報交換会 7

東北地方ESD活動支援センター

- ESD／SDGs推進・地域研修会 8・9
東北ESD／SDGsフォーラム 10・11
ESDネットワークの形成 12

他団体連携

- GreenGift地球元気プログラム 13
地球環境基金との連携 14

I nformation

- 刊行物のご紹介 14

P hoto Reports

- 共催・協力したセミナー 15

巻頭特集

環境で地方が元気になる
時代がやってきた！

地域循環共生圏

環境省 大臣官房 環境計画課 企画調査室長

佐々木 真二郎

2020年10月、菅総理が国会の所信表明演説で2050年までに脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。日本が一丸となって、持続可能な社会を目指すという決意表明を受け、世の中が大きく舵を切りました。一方で地方では、人口減少、限界集落、地域交通や医療、耕作放棄地、植林地の管理不足…挙げだしたらきりがないほどの課題に直面し、脱炭素をはじめとした環境課題は優先順位が低いかもしれません。しかし、地方の元気がなくなった転換点はどうでしょうか？ 戦後、化石燃料に依存した社会となり、里山からエネルギー・資源を取り出さなくなり、プラスチック製品を中心に大量生産・消費型の社会となり、大量の燃料を用いたグローバル経済や機械化が進み、結果として地方に雇用が少くなり、人口が都市に流出した、という面があります。地方に元気がないのは、化石燃料への依存がもたらした持続不可能な社会が持つひずみかもしれません。

「地域経済循環分析※」というツールを使うと、市町村単位で地域内のお金の流れをざっくりと把握できます。ほとんどの地域で、地域から巨額のエネルギー代金が流出していて、地域内にお金が残りにくい構造です。これは、日本では化石燃料を地産地消できないからです。地域活性化では、お金をいかに地域内で消費・循環させ、雇用に結びつけるか、という観点も、地域経済を強くし、持続可能な地域を作るために重要な視点になります。

近年、再生可能エネルギーを地域で生産・消費したり、地域新電力会社を介して地域で消費することで、地域からのお金の流出を減らし、地域内の所得を向上させている自治体が増えています。所得が向上し、再生可能エネルギー事業以外でも雇用が増え、人口減少に歯止めがかかり始めています。重要なのは、エネルギーに限らず、食などの生態系サービスや地域の物産において「地産地消」を進めることです。一方で、その地域では生産できないものは、地域間で支えあうことも重要です。

環境省では、このような考え方をベースにした「地域循環共生圏」の構築を進めています。津々浦々の地域の自然の恵みを最大限に活用し、自立・分散型の社会を形成していくのです。地域資源を活用した、持続可能な社会に貢献する様々なビジネスや公共性のある事業を生み出し、地域が抱える環境・経済・社会の課題を同時解決し、地域を、そして日本を元気にしていく、「ローカルSDGs」を実践する取組みです。環境省では地域循環共生圏づくりに取り組む地域、企業、NPO、金融機関などを募集しています。ぜひ、一緒に環境で地方を元気にし、持続可能な社会を作りましょう。

※地域経済循環分析自動作成ツール
<http://www.env.go.jp/policy/circulation/>

What?

環境省では地域でのSDGsの実践（ローカルSDGs）を目指し、「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」を実施しています。地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた「地域循環共生圏」の創造に取り組む活動団体の公募において東北地区では2団体が採択され、EPO東北ではそれぞれの取組みの伴走支援を行いました。

[東北地区採択団体1] 宮城県石巻市

一般社団法人 Reborn-Art Festival

東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市は経済基盤の落ち込み、人口減少が大きな課題となっています。地域の活気を取り戻し、持続可能な復興を目指すため、石巻・牡鹿半島をメイン会場とした食・音楽・現代アートを柱とした総合芸術祭「Reborn-Art Festival」を2年に1度開催しており、地域の魅力を掘り起こし、交流人口の増加、さらに地域産業の活性化や芸術祭を通じた移住・定住を目指して取組みを進めています。2021年の第3回開催に向けてオンラインでのイベント開催や、里山の獣害対策の一つとして鹿の命の循環を目指して加工・販売するプランディング、新たなローカルビジネスの創出に向けたステークホルダーとの意見交換を実施しました。



事業者とアーティストの意見交換イベント

[東北地区採択団体2] 山形県鶴岡市

鶴岡市三瀬地区自治会

鶴岡市三瀬地区では、人口減少が加速し、経済的な停滞、担い手不足、交通や災害対策への不安など、生活基盤に対して深刻な課題を抱えています。三瀬地区自治会を中心となり、鶴岡市内の包括的な連携を生み出し、多方面を巻き込みながら様々な課題の同時解決を目指す取組みが進められました。豊富な森林資源、郷土の文化、日本唯一のユネスコ食文化創造都市に登録される食文化など地域資源を活かし「森林資源エネルギー活用事業」「海、山、川、里自然体験事業」を展開しています。協議会等の一体的な組織構築を目指すため、ステークホルダーと課題整理ワークショップや合意形成を図る意見交換の場を設け、課題やニーズの整理を行いながら地域の目指す未来を共有しました。



ステークホルダーが一堂に会する全体会

EPO東北の取組

EPO東北では、東北地域の採択団体と対面やオンラインでのミーティングを行い、事務局の皆さんと一緒に課題を整理して事業の進め方を探り、地域のコンセプトを描く「マンダラ作り」など、協働取組の各課程へサポートを行いました。また採択団体が主催する会議や催事に参加し、ワークショップのファシリテーションや地域循環共生圏構想の理解を促す話題提供等の協力をしました。



三瀬自治会主催ワークショップ



採択団体とのミーティング

東北地区採択団体 合同意見交換会

事業の進捗状況を確認し、それぞれが抱えている課題を共有する合同意見交換会を開催しました。環境省環境計画課から、事業のコンセプトについてお話をいただき、地域を巻き込む工夫や事

開催日	2020年10月12日(月)～13日(火)
会 場	山形県鶴岡市三瀬地区コミュニティセンター他(山形県鶴岡市)
主 催	環境省東北地方環境事務所、EPO東北

業の捉え方、進め方について意見交流を行いました。

また、開催地である三瀬自治会の自然エネルギー事業に関わる現場視察を行い、各団体から「同じ東北内の採択団

体の活動を見て・聞くことができ刺激になった」「改めてプラットフォーム事業が目指す方向性を理解することができた」と感想をいただきました。



合同意見交換会



三瀬地区的現地視察



開催日 2020年12月3日(木)

会場 アートホテル盛岡 3階 凤凰の間(岩手県盛岡市) ※オンライン同時配信

主催 環境省東北地方環境事務所、EPO東北

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて



講師と発表者で意見交換を行いました。

What?

環境省では地域でSDGs達成に向けた取組みを進めるために、地域と都市が連携しながら環境・社会・経済の複数の課題を同時解決する「地域循環共生圏」を提唱しています。コロナ危機で地域経済が停滞する中でも環境・社会・経済の3つの側面を考えた企業活動が求められています。地域循環共生圏やESGについての理解、取組み方法を学んでいたくために「地域循環共生圏ESG金融フォーラム～脱炭素・SDGsの実現を岩手から～」を開催しました。

Report

新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場参加人数を縮小し、同時にオンライン配信を実施するハイブリッド型で開催しました。会場参加者数77名、オンライン220名の計297名の参加がありました。

基調講演では「コロナ時代のサステ

ナブル経営と地域戦略」と題して吉高まり氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 経営企画部副部)に講演をいただきました。ESGとSDGsの関係性、コロナ危機での経済変化、SDGsを経営概念に取り入れるメリットについてお話をいただきました。

国内先進事例では滋賀銀行 総合企画部 サステナブル戦略室長の嶋崎良伸氏より「近江商人のESG地域金融」と題して発表をいただきました。「金融機関として地域とどう関わるか」をテーマに地方金融機関で初めてSDGsの概念を取り入れた「SDGsしがきん宣言」の内容等をお話しいただきました。

連携先進事例では「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して常川真由美氏(四国EPO統括)にオンライン講演をいただきました。環境省中国四国地方環境事務所と四国EPOは持続可能な四国の実現に向けて「ロー

カルSDGs四国(LS四国)」を立ち上げました。行政、企業、団体など多様な主体が参加しています。発表ではLS四国を立ち上げた経緯についてお話をいただきました。また、LS四国の運営体制や具体的な取組みの紹介がありました。

会の後半には東北で活動している10組の団体によるSDGsの取組みや地域循環共生圏の推進についてのショートプレゼンテーションに対し、講師・講演者から発表者に助言や応援メッセージが寄せられました。講師の具体的な助言により新しい視点からプロジェクトを捉え直す機会にもなり、閉会後に会場で行われた交流の時間では活発に意見交換が行われていました。

参加者アンケートでは「ESG、SDGsや地域循環共生圏の勉強になった、環境・社会・経済の繋がりの重要性を勉強することができた、次回も参加します」と感想をお寄せいただきました。

みちのく薪びと祭り

What?

東日本大震災では再生可能エネルギーの利用が注目され、特に森林エネルギーにおいては薪ストーブの活躍事例が多く見られました。EPO東北では平成24年度から再生可能エネルギー交流会を企画し、平成26年度から地域開催型交流会「みちのく薪びと祭り」を実施しています。東北一巡を目指して毎年開催してきました。

東北各地で薪をテーマに活動する団体が一堂に会して相互交流を行うことで、活動の活性化とネットワークづくりを目的としています。



せどやま市場での集合写真

薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北

「地域循環共生圏づくり支援ネットワーク交流・意見交換会」

～地域を超えて「環境・社会・経済・教育」の好循環について考える～

開催日	2020年11月14日(土)・15日(日)
会 場	北広島町役場 芸北支所他(広島県山県郡北広島町内)
主 催	EPO東北
共 催	EPOちゅうごく
協 力	認定NPO法人西中国山地自然史研究会、GEOC



Report

みちのく薪びと祭りは昨年度、目標としていた東北一巡開催を達成しました。開催地の受け入れ団体や関係者と、これまでの成果や課題の整理、今後のあり方や方向性を議論するため、広島県北広島町において視察と意見交換会を実施しました。

北広島町では、地域の豊かな森林資源を活用し、里山の再生と様々な地域課題解決を図る、薪を使った豊かな暮らし「薪活!」が推進されています。その「薪活!」を支える芸北せどや再生事業では、地域住民・森林組合、NPOなどの協力により、運び込まれた木を市場より高い価格で地域通貨として買い上げ、薪に加工して販売しています。また地域に生息する「茅」を活用した茅葺き屋根など伝統的な建築物や技術を伝える「芸

北茅プロジェクト」があり、薪事業とともに地域の学校と連携したプロジェクトを進めています。視察では、薪が運びこまれ加工される「せどやま市場」、薪を利用している温泉施設、茅が乾燥保存されている茅金市場の見学をしました。

また、これまでのみちのく薪びと祭りを振り返り、環境・社会・経済・教育の視点から次のステージへのステップアップに向けた意見交換を行いました。これまでの「祭り」の雰囲気は残しつつ新たな視点を入れていきたいという意見や、「次世代を担う若者の巻き込み」「異業種の巻き込み」「女性の役割の位置付け」など地域循環共生圏構想を意識してこれまでにならない視点から意見があげられ、セカ

ンドステージに向けた機運が高まったと感じています。



茅金市場の見学



意見交換会の様子



東北の地域循環共生圏をテーマにした講演

開催日 2020年9月11日(金)
会 場 仙都会館(宮城県仙台市)
主 催 EPO東北

What?

EPO東北では東北各県で円滑に事業を推進するために、県全域で活動する各県の団体と連携・協力をしており、「パートナーシップ団体」と呼んでいます。地球温暖化防止活動推進センターの指定を受ける団体等、9団体で構成し、年に1度情報交換と学習の場を設けています。

Report

新型コロナウィルス感染症への対応により、各地で試行錯誤をしながら少人数やオンライン形式の催事が行われています。これまで通りの活動が制約され

る中でもSDGsの関心の高まりから各地で相談が増えており、「ローカルSDGs」として東北らしい地域循環共生圏のあり方を考えようと、青森大学の佐々木豊志氏に講演をいただきました。自然体験の中で自ら学び・考え・主体的に判断して行動し問題を解決する能力を身につけることの大切さについてお話しがあり、青森大学の事例をご紹介いただきました。地域と一緒にSDGsを具現化するアクションに取り組もうと「自然サークルSDGs」を発足し、広報や啓発活動が行われています。この活動をきっかけに学生が社会問題に関心を持ち、ねぶた運行団体やスポンサー企業、福祉作業所と協働する「ねぶたうちわプロジェクト」を立ち上げました。SDGsの視点とビジネス要素を持った、地域循環共生圏の小さなモデルが生まれていま

す。SDGsの思考と行動に取り組んだ結果、地域でSDGsの視点を持ってプレイヤーとして活躍する学生が育っていることをご紹介いただきました。

会の後半には、地域や団体の状況について情報共有を行いました。福島県では震災復興、台風被害、新型コロナウイルス感染症の3つの対策本部が立ち上がり人手が割かれていること、青森県ではこれまで継続してきた環境分野のプロジェクトの活動が止まってしまったことなど、各地の状況を共有していただきました。また、オンライン配信やアプリを使った新しいスタイルの啓発活動についても紹介があり、具体的な取組み内容やESG金融の視点を取り入れていくことの重要性について意見が交わされました。

What?

東北地方ESD活動支援センターでは地域のESD活動の促進を目指して、青森県、秋田県の地域ESD推進拠点と協働し、意見交換会や学校の授業支援、講演会の実施、またSDGsに関心のある方が誰でも気軽に参加できるオンラインでのチャットルーム開催等の事業取組みました。

八戸工業大学第二高等学校科学愛好会・ 青森県立青森高等学校自然科学部 意見交換会

開催日 2020年8月8日(土)

会 場 アピオあおもり(青森県青森市)

主 催 東北地方ESD活動支援センター

地域ESD推進拠点の青森県環境パートナーシップセンターが主催する青森県地球温暖化防止活動推進員研修会で、マイクロプラスチックの研究を行う高校生が研究発表を行いました。また、発表の後には高校生同士が交流する意見交換会を開催しました。普段の学校生活や個人の趣味の話で場が和み、発表の感想や研究の課題を共有し、今後の活動で取り入れたいことやそれが調査で蓄積したデータの活用による連携に向けた発言がありました。



高校生同士の意見交換

階上町立道仏小学校 総合的な学習「SDGs授業」「校内研究」

開催日 2020年11月5日(木)

会 場 階上町立道仏小学校(青森県階上町)

5・6年生の総合的な学習の時間に、SDGsの12番「つくる責任つかう責任」をテーマにした授業を行いました。青森県地球温暖化防止活動推進員の貝森毅彦氏を講師に、3Rの活動と紐づけ、自分ができることを考えるワークショップを実施しました。ワークショップでは、食べ物・ゴミ・衣服・学校生活が各グループの話題の中心となり、自分の生活を見直し、考え、行動するきっかけとなる授業となりました。授業後には、授業プログラムについて全教員との意見交換が行われ、今後の授業プログラム構築に向けての重要な機会となりました。



グループごとに自分の意見を出し合いました

青森県内中・高等学校におけるキリバス講話

八戸工業大学第二高等学校・附属中学校

開催日 2021年1月13日(水)
会 場 八戸工業大学第二高等学校(青森県八戸市)
対 象 附属中学校1~3年生・高等学校1・2年生・教員／400名

グローバルな視点から世界と自分が住む地域のつながりを捉え、理解を深めてもらうため、キリバス講話を実施しました。キリバス共和国は気候変動の影響を受け2050年には国がなくなるという危機に直面しています。講師のケンタロ・オノ氏はキリバス共和国の現状を伝える講演活動に取り組んでいて、気候変動の影響に加え、プラスチックごみや水の問題など、普段の生活が地球の未来に直結していること、これらの課題解決にはSDGsの達成が不可欠であるという熱いメッセージが伝えられました。



青森市立東中学校

開催日 2021年2月9日(火)
会 場 オンライン
対 象 1~2年生・教員／190名



ケンタロ・オノ氏による講演

あきたSDGs チャットルーム

第1回 「SDGs×あきた」 持続可能な未来をデザイン

開催日 2020年10月31日(土)

第2回 ローカルSDGsの実現 米焼酎「ねっか」

開催日 2021年2月6日(土)



第1回チャットルームの様子

主 催 一般社団法人あきた地球環境会議 共 催 東北地方ESD活動支援センター

持続可能な秋田の未来を目指し、SDGsに関心を持つ人や知りたい人、一緒に考えたい人が集い対話を楽しみながら学び合うチャットルーム(さまざまな人が気軽に集まれる場所)を開催しました。第1回はSDGsの基礎を学びながら、グループチャットでは秋田県内のモデル事例からSDGsを紐解き、新たなモデルを考えるケーススタディを行いました。第2回は福島県只見町の教育現場の取組みと街づくりの事例をご紹介いただき、SDGsの視点から秋田の地域づくりについてグループチャットで意見交換を行いました。





背景画像を合成してYouTube配信しました。

開催日 2021年1月31日(日)
 会 場 オンライン会場(Youtube配信)
 主 催 東北地方環境事務所、東北地方ESD活動支援センター
 共 催 ESD／ユネスコスクール・東北コンソーシアム

What?

ESDはSDGsの4.7に記載されています。約10年ぶりに改訂された学習指導要領にはESDの理念が掲げられており、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校と地域が連携した教育活動の充実が求められています。関心が高まるESD／SDGsの基礎情報を再確認し、地域の事例を発信することでESD活動の輪を広げていこうと「東北ESD/SDGsフォーラム2020」をオンラインで開催しました。



Report

オンライン開催としたことで、東北内だけではなく全国各地から教育関係者、行政、NPO、企業、学生など多くの方々にご参加いただきました。視聴者に代わってコーディネーターの鈴木悦子氏が登壇者へ質問を投げかけるトークスタイルで開催しました。

初めにコーディネーターの市瀬智紀氏から、「ESD・SDGsを知ろう!」をテーマに、SDGsの成り立ちや捉え方についてお話をいただきました。また「誰一人取り残さない」という理念を実現している活動事例として、宮城教育大学の大学生が立ちあげたグループの紹介があり、サプライズゲストで大学生が登壇し、活動紹介をしていただきました。

続いて幼稚園、小学校、中学校の現場で、地域と連携しながら学びを深める取組みをご紹介いただきました。幼稚園で

は遊びや生活の中で体験・体感・気づきを大事に育てる取組み、小学校では地域との繋がりを大切にした活動、中学校では世界共通の「国際海岸クリーンアップ(ICC)」調査に沿った海岸清掃と漂流物を生かす活動の発表がありました。子ども達の変容はもちろん、活動を通して「職員も地域を知ることができた」と教員の変化についても報告がありました。

また、東北各地でESDやSDGs達成に向けた活動に取り組む団体、フォーラムの主旨に賛同いただいた方々にご協力いただき、場面転換時には皆さんの取組みを紹介する20秒程の短いCM動画を配信しました。各活動事例に対し「目的やねらいが明確で素晴らしい」「素晴らしい取組み!今後も継続してほしい」と感想をいただきました。リアルタイムで応援メッセージや質問が多数寄せられ、ESD／SDGsに対する高まりとともに、全国の方と繋がることができるオンラインの良さを感じることができたフォーラムとなりました。



気仙沼市立小泉幼稚園 水野真由美氏と気仙沼市立松園幼稚園 日下真知子氏



配信会場の様子



大仙市立藤木小学校 山信田 浩氏



青森市立東中学校 角田毅氏、土岐礼一氏



サインポーカリスト穀田千賀子氏



尚絅学院大SDGsラボ



公益財団法人 福島県観光物産交流協会



青森大学

参加者の声

- 各地域の実践の内容や成果について分かり、参考になりました。SDGsの観点から教育課程や学習内容を見直すこと、地域学習や感性の教育的重要性など学ぶことが多かったです。
- 始めて参加しました。いろいろな活動の取組みを聞くことができてよかったです。
- 今回はオンラインによって幼・小・中・大での様々なESD／SDGs活動の実践例をとても興味深く聞かせて頂きとても充実した時間を過ごさせて頂き大変勉強になりました。
- 小さいうちからの取組みから、自主的に考えられる大学生の取組みなど、環境を整える重要性も感じました。
- ESDの活動のために、地域連携が大切なことがわかった。県内の企業や支援団体との連携を図っていきたい。
- 大変面白くあつという間の2時間半でした。青森東中の活動は中学生の活動とは思えないほどで圧倒されました。
- SDGs普及に向けて良いフォーラムだったと思います!今後は一人一人がアクションを起こさなければならないフェーズに突入してきたと感じているので、是非その後押しをお願いします!

ESDネットワーク会議

開催日	2021年2月20日(土)
会 場	オンライン開催
主 催	ESD／ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム 東北地方ESD活動支援センター

What?

東北地方ESD活動支援センターではESDに関する既存のネットワーク「ESD／ユネスコスクール・東北コンソーシアム」と連携し、東北地方のESDネットワーク拡充と相互交流の促進に取り組んできました。ESDネットワーク会議は東北地方でESDに関する取組みを進める関係者の皆さまが一堂に集い、情報交流を行う場として開催しています。



配信会場の様子

R eport

ESD推進拠点やESDに取り組む学校

関係者、行政、NPOなど、日頃からESD活動に取り組む東北地方の関係者50名程が出席し、意見交換を行いました。冒頭には東北各県から1団体ずつ「SDGsの視点からの人づくり」をテーマに話題提供をいただきました。

換を行いました。取組みを進めるにあたりさまざまな壁にぶつかったことや、生徒が地域に貢献する取組みを通じて人間形成につながることを実感したこと、連携にあたっての工夫や課題が共有されました。

後半は「人づくり」の視点から意見交

地域ESD活動推進拠点

地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)登録制度

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした地域のESDを支援する組織や施設に、「地域ESD活動推進拠点」としてご登録いただく仕組みです。

地域ESD拠点の役割

地方センターや他の地域ESD拠点とも連携・協働して、ESDの活動や学びを深めること、学びの機会や場を広め、担い手を増やしていくことが期待されています。

東北地方の地域ESD拠点

1 NPO法人 青森県環境パートナーシップセンター(AEPC)
青森県青森市

3 NPO法人 環境パートナーシップいわて
岩手県盛岡市

6 気仙沼ESD／RCE推進委員会
宮城県気仙沼市

9 NPO法人 環境ネットやまがた
山形県山形市

12 いわきユネスコ協会
福島県いわき市

2 八戸工大第二高等学校・附属中学校
青森県八戸市

4 公益財団法人 みやぎ環境とくらし・ネットワーク(MELON)
宮城県仙台市青葉区

7 一般社団法人 あきた地球環境会議(CEEA)
秋田県秋田市

10 NPO法人 うつくしまNPOネットワーク
福島県郡山市

13 会津ユネスコ協会
福島県会津若松市



Green Gift 地球元気プログラム

東京海上日動火災保険株式会社「Green Gift地球元気プログラム」

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。2013年から日本NPOセンターが主体となり、東京海上日動各支店、地域の環境NPO、全国のEPOと連携し、国内各地で、主に子どもたちを対象とした環境保護活動を展開しています。2016年か

らは、1地域3か年の活動として拡充され「Green Gift地球元気プログラム」としてスタートし、青森県、岩手県、山形県の3県で、東京海上日動の各支店と地域の団体が連携して取り組んでいます。EPO東北は企画協力として、企画助言や活動広報を行い、開催地の資源やつながりを活かしたプログラム作りをお手伝いしております。

→ 詳細はGreen Gift地球元気プログラムWEBサイトへ

[Green Gift地球元気](#)

検索



「Green Gift 地球元気プログラム」とは

東京海上日動の「Green Gift」プロジェクトの一環として実施する国内環境保護活動。日本NPOセンターが主体となり、東京海上日動と国内各地の環境NPOが協力して、主に子どもたちを対象とした環境保護活動を各地で展開しています。環境保護に関する体験活動を通じて、子どもたちが身近なところから環境について考えるきっかけを持つことによって、持続可能な社会が実現することを目指しています。



青森県

小川原湖自然楽校 根井沼で浮島探検をしてみよう!

開催日 2020年9月6日(日)

会 場 青森県三沢市早稲田地内根井沼

青森県三沢市にある根井沼には、日本でも数少ない自然にできた浮島があります。その浮島まで、タイヤチューブとベニヤ板を使って自分たちで作ったいかだで渡り、浮島がどうやってできているのか、どんな生態系が存在するのか見て・聞いて・触れて、五感を使いながら浮島を探検するプログラムを実施しました。



手作りいかだで浮島に到着!

岩手県

一般社団法人いわて流域ネットワーキング 親子でカヌー!&水辺の安全教室

開催日 2020年9月13日(日)

会 場 御所湖広域公園船庫(岩手県雫石町)

毎年、川での事故が絶えません。川のどんな場所が危険なのか、危険な状況になった場合どう対応をすればよいのか、座学と実技を通じて川や海、湖での事故から自分の命を守る水辺の安全教室を実施しました。また岩手の自然を感じてもらうため、御所湖でのカヌー体験を実施しました。



御所湖でカヌー体験

山形県

やまがたヤマネ研究会 川の周りに何がいる!?川辺の生物を調べてみよう!

開催日 2020年8月22日(土)

会 場 大井沢キャンプ場(山形県西川町)

環境省の全国水生生物調査票と団体オリジナルの調査票を用いて、貴重生物種の保全や水質・水源保全、SDGsのお話をしながら、水辺に棲む生き物の調査と水質調査を実施しました。家族ごとに川虫班、魚班、調査班に分かれて活動を行い、後半は検査キットを使って全員で水質調査を行い、自然環境における水の役割と循環を学びました。



川虫班「あ!カゲロウ発見!」

他団体連携

地球環境基金との連携

地球環境基金助成金説明会

2021年度地球環境基金助成金説明会&SDGs活用セミナー

開催日	2020年10月29日(木)
会場	オンライン配信
主 催	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
協 力	EPO東北



オンライン配信会場の様子

What?

「地球環境基金」は民間団体(NGO、NPO等)による環境保全活動を広く支援することを目的として、独立行政法人環境再生保全機構が運営しております。2021年度地球環境基金助成金の募集を開始するにあたり、オンラインによる説明会を開催しました。

Report

2021年度地球環境基金助成金メニューの紹介や東北内で助成を受ける団体からの事例紹介を行う説明会をオンラインで開催し、東北内外から、環境活動団体など20名が参加しました。新型コロナウイルスの影響でオンラインの催事開催の需要が高まっていることから、オンライン配信のコツを伝える講演を行いました。後半は助成を受ける東北の団体より、助成を受けるメリットや申請のポイントについて紹介いただきました。最後に、地球環境基金から2021年度の助成メニューを紹介いただき、希望者にはオンライン上で個別相談を行いました。



刊行物のご紹介

「3.11あの時」シリーズ

EPO東北では東日本大震災発生後、現地の声を各地に届けようとヒアリングに取組み発信してきました。あの時何が起きたのか、支援活動の成果と課題、大震災からの教訓が詰まっています。



3.11あの時 教訓事例集

「東日本大震災から得られた教訓を知りたい」との声にお応えして、異口同音に語られた「学び」を事例集としてとりまとめました。

3.11あの時事例集

一中間支援組織 1年間の後方支援活動の記録

多くの支援の手を現場に届けるために仲介役として奮闘した団体の、大震災発生から1年間に渡る活動の記録集です。

EPO東北ウェブサイトでPDF版をダウンロードしてご覧いただけます。冊子をご希望の方には無料で配布いたします。

持続可能な開発目標(SDGs)
活用ガイド

企業がSDGsに取り組む意義を説明し、具体的な取組みの進め方を示しています。SDGsに取り組む企業の事例などが紹介されています。



- 持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド 本編
- 持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド 資料編

SDGsチラシ

「SDGsとは?」を取りまとめたチラシを作成しました。EPO東北ウェブサイトでPDFをダウンロードできます。



- SDGsチラシ 子ども向け



- SDGsチラシ 一般向け

Photo Reports

エコロジカルビジネス班「SDGs学習会」



主催 秋田市立秋田商業高等学校

日時 2020年6月25日(木)

会場 秋田市立秋田商業高等学校(秋田県秋田市)

EPO
活動支援

SDGsの概要に加え、企業のSDGsに対する取組みについてお話をしました。SDGsに初めて触れた生徒からは「自分には何ができるのかを考えて生活したい」「何か自分で行動を起こしたい」との感想が寄せられました。

東北ブロックエコアクション21力量向上研修会



主催 エコアクション21中核地域事務局、環境ネットやまがた

日時 2020年9月25日(金)

会場 仙台市市民活動サポートセンター(宮城県仙台市)

EPO
活動支援

エコアクション21認証・登録10年継続事業者表彰・記念式典の中でSDGsをテーマとした講話をさせていただきました。SDGsの概要や国内外の取組みをツールとして活用する考え方を紹介しました。

令和2年度地球温暖化対策に関するセミナー「気候変動とSDGs」



主催 秋田県地球温暖化防止活動推進センター

日時 大仙会場 2020年12月 5日(土)

由利本荘会場 2020年12月12日(土)

会場 大仙会場 大仙市大曲交流センター(秋田県大仙市)

由利本荘会場 由利本荘市文化交流館カーデー(秋田県由利本荘市)

EPO
活動支援

地球温暖化防止活動推進員やエコマイスター、地元の高校生が参加し、幅広い年代の関心の高さが伺えました。

高校2年生有志対象 SDGsワークショップ



主催 八戸工業大学第二高等学校

日時 2020年7月11日(土)

会場 八戸工業大学第二高等学校(青森県八戸市)

ESD
活動支援

高校2年生約150名を対象としたSDGs入門編の講話を行いました。終了後には興味を持った有志を対象にSDGsと身近な話題の関係を考えるワークショップを行いました。

高校1年生対象 国際理解教育講演会



主催 山形県立東桜学館高等学校

日時 2020年8月25日(火)

会場 山形県立東桜学館高等学校(山形県東根市)

ESD
活動支援

文化や価値観の違いなど多様性について理解を深めることを目的に、写真や動画を交えながらマレーシア、フィジー、キリバスの暮らしと環境課題を紹介しました。生徒からは世界への関心や、学びの意欲が高まったことが伺える感想が寄せられました。

鹿角地域教育旅行関係者SDGsセミナー



主催 鹿角地域振興局

日時 2020年11月26日(木)

会場 鹿角地域振興局(秋田県鹿角市)

ESD
活動支援

教育旅行におけるSDGsについて関係者の理解を深めるために、セミナーが開催されました。「もし自分が校長だったら、SDGs達成に向けて学校でどんな取組みを進めるか」を考える「創造ワーク」を行い、SDGsの視点から物事をとらえ直す仮想体験をしてもらいました。

EPO東北とは

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的として2006年7月に開設されました。

持続可能な社会を目指したよりよい環境活動を進めるためには、行政や企業、市民、団体など、さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協力していくことが重要です。たくさん的人がEPO東北をきっかけにして出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

→ 詳細は、EPO東北ウェブサイトへ
EPO東北 <https://www.epo-tohoku.jp/>



東北地方ESD活動支援センターとは

『ESD活動支援センター』は、ESDの更なる推進に向けて創設された官民協働によるプラットフォームです。地方ESDセンターは全国8カ所に設置されました。

東北地方ESD活動支援センターは青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県を対象に、学校や行政、企業や専門機関、市民など、さまざまな主体の取組みをつなぎ、皆さんのESDの活動がより活性化し促進されるよう支援します。

→ 詳細は、東北地方ESD活動支援センターウェブサイトへ
東北ESD <https://tohoku.esdcenter.jp/>



メールマガジンのご案内

EPO東北や東北地方ESDセンター、環境省からのお知らせ、環境に関する催事や助成金・募集情報をお届けしています。
■発行／毎月2回(第2週、第4週) ■登録／EPO東北ウェブサイトの「メールマガジンのご案内」よりご登録ください。

オフィス案内

各種資料の提供

環境やESD、SDGsに関する情報や資料を展示・提供しています。



ミーティングスペースの無料貸出
打ち合わせ、会議、小規模セミナーご利用ください。



- 利用時間帯／10:00～18:00(月～金)
- 利用料金／無料、3日前まで要申込
- 利用人数／6名まで

*感染症対策をしています。利用のガイドラインはEPO東北ウェブサイトでご確認ください。

休館日 土日祝、お盆、年末年始

業務時間 平日 9:30～18:00

住所 〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23仙台第2合同庁舎1F

T E L 022-290-7179 (EPO東北)

022-393-9615 (東北地方ESD活動支援センター)

F A X 022-290-7181 (共通)



地下鉄勾当台公園駅「公園1」出口より徒歩3分、
JR仙台駅から徒歩15分

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



表紙写真：淨土ヶ浜写真コンクール作品 広内健治「水模様」(岩手県淨土ヶ浜)
(画像提供元：淨土ヶ浜ビジューセンター)

2021年3月発行